

第5回中京独立戦略本部会議 議事概要

本部長	主な意見
大村 秀章	○この地域は子どもが非常に多い。人口の自然増加率では、沖縄の次が愛知であり、このところ自然増で愛知県の人口が増えている。子育て支援など、本日いただいた意見をしっかり受け止めていきたい。 ○名古屋駅及び名古屋駅周辺の整備は、名古屋市が中心となって取り組んでいくが、県、さらには国を巻き込んでの大プロジェクトになる。是非、力を合わせてやっていきたいと思っている。こうした具体的なプロジェクトを煮詰めていきながら、県・市の方向を一つにし、中京都構想を進めていきたい。 ○今回の本部会議で一区切りとしたい。引き続き、本部員の皆様には、個別又はお集まりいただくなどの方法で、ご意見を伺うこともあろうかと思うが、その際には、ご支援、ご指導をいただきたい。
河村 たかし	○名古屋港の貿易黒字が6兆円あっても、東京へ流れているのは、もったいない。 ○立法権と財政自主権を持って、独立をしなければならない。 ○いくつか提言をもらった。面白いことのほか、待機児童対策とか、子ども応援委員会など、子どものことは熱を入れてやっている。 ○魅力創造・発信ということで意見をいただいたが、これだけ中央集権の中にあって、よく健闘していると思う。 ○この地域は、いわゆる三男坊主義ということで、危機感が欠如しているというのは感じる。長男坊を目指さなければならない。

本部員	主な意見
井沢 元彦	○これまで会合を重ねてきて、地方分権の強化という方向性ははっきりしている。今後は、政治的に実現するためには、議会などが、知事・市長をバックアップするような体制を目指さなければならない。 ○全体会合は、日程を合わせるのが大変であったり、細かいことが討議しにくいということがあるので、今後、こういうことをやるのだとしたら、早い段階から分科会を立ち上げるなどの方法を考えてもらいたい。又、本部員の構成についても、かなりバランスを欠いているということが否めないで、3分の1くらいは女性にするとか、若手のメンバーをもう少し入れるとか、改善の余地がある。 ○少子化が一番の問題であり、保育所などを充実させ、転勤するなら名古屋・愛知、子どもを産むなら名古屋・愛知ということをアピールしていくべき。
奥野 信宏	○中京独立戦略本部の取組により、県と市が力を合わせていろいろな事業を実施していく基礎ができたことの意義は大きい。 ○リニアの開業などにより、東京から大阪、北陸も含めたメガリージョンができる。その中心が名古屋・愛知となるが、東京では、東京の一極集中を是とする意見も強まっているので、この中部圏が大事だという存在をどう訴えていくか、多分、これからの数年間が勝負だと思う。 ○今まで国土計画は道州制を睨んで議論してきたけれども、メガリージョンができたときに、今の道州制の区割りの議論をそのまま延長して考えることができるのかどうかをきちんと議論しなければならない。

奥野 信宏 (続き)	○「子どもが産まれる社会をつくろう」ということを考えたときに、モデルとなるのが、名古屋・愛知であり、3世代同居は全国平均より圧倒的に高い。東京でも、愛知モデルに似たライフスタイルをどう実現させていくかということが、今後の地域政策、公共政策、地方計画のテーマになる。 ○大都市圏戦略として、英語圏の人が英語で生活してストレスを感じないまちをつくるということは、日本語を大事にすることとは別に大事なことだと思う。 ○三大都市圏というと、政府から3番目に何かやってもらえるのではないかという雰囲気があるので、三大都市圏という言い方はやめた方がよい。 ○グレーター・ナゴヤというのは、首都圏などと比べても強い地域である。尾張名古屋共和国ということではなく、三河も入っても良いのではないかな。
柘植 康英	○政策面では、分科会で議論された政策がうまく取りまとめられている。いずれも必要な政策であり、実現していけば、この地域がより強くなり、ヒト・モノ・カネを集める基盤もできるようになる。次は、それらを分かりやすく仕分けをして、どのように実行するのが重要である。 ○組織論は、もともと、県・市のあり方に関わって、なかなか難しいが、今後はできることの実践、実行を優先すべきである。 ○政策については、基礎自治体間の相互連携、広域自治体間の連携及び基礎自治体と広域自治体間の重複行政の解消の観点から推進していただきたいが、名古屋港の管理、図書館の配置など、県・市の連携が既になされているところであるので、今後は、広範な分野に

柘植 康英 (続き)	わたり、県・市の連携を深めていって欲しい。 ○自治体の権限と税収のバランスの問題については、同志を集めて強く主張していくしかない。 ○行政体制については、どういう組織形態をとろうとも、現状における市と住民の距離感をあまり壊さない方が良いのではないか。 ○この地域は、産業基盤が強いなど、非常に恵まれた地域であるがゆえに、現状を変えなければならないという危機感が欠如している。モチベーションを高めていかないと、他地域に負けてしまうことになりかねない。
鶴田 欣也	○この地域は、ものづくりの中核であり、地理的にも優位性を持っているが、物流インフラの整備が不十分のため、単なる通過地点になっている。 ○リニア開通に関しては、名古屋駅周辺の魅力づくりと同時に、市内・県内の観光施設を充実させ、名古屋が、単なる中継点にならないようにしなければならない。 ○中京都構想が実現すれば、中小企業における先端技術への対応、優秀なものづくり人材の確保、大学の魅力づくりへの支援策など、地域独自の施策が期待できる。これまでの、この会議での検討内容が、今後のこの地域の発展に寄与することを願っている。 ○構想を進めていくにあたって、周辺的首長の理解等を得ておくことが重要だと思う。

中村 捷二	○どのような政策が必要かということについては、県・市も十分認識されて来たと思う。今後は、政策をどのように実現していくのかということを議論して欲しい。 ○モノづくりも非常に大事であるが、第3次産業も含めて、具体的に取り組む事柄を選択し、それを県・市が一体となってやっていくということを表明することが、この地域のパワーアップにつながる。 ○今後の県・市での取組にあたっては、専従的な部署や職員を配置して継続して取り組んで欲しい。
永谷 亜矢子	○県と市で取り組んでいくにあたり、3ヵ年で何をするか、東京オリンピックまでに何をするか、リニア開通までに何をするかなど、実現までの期間を分けて考えるべき。 ○自動車産業で培った細やかさと高いクリエイションといったものは、次世代のITやデジタルコンテンツ産業に確実につながる。そういった企業の誘致や、外から優秀な若い人材を取り入れることが重要である。 ○3日間で10万人を集めることができるメディアとか、それだけの集客をすることができる場合は、東京にはなかなかない。この地域は、ひとつになって発信できる力がある。 ○GDPが高く、交通も、食べ物も、すべて平均点より高い地域なので、愛知と名古屋が一緒にできることはたくさんあるはず。マーケットを牽引するコンテンツをつくり、全国やアジアに発信してはどうか。

浜本 英嗣	○これまでの議論を踏まえると、「活力に満ちて、世界から人が集まる魅力ある地域づくり」がおそらく愛知・名古屋の目指すべき共通の目標と言える。 ○これまでの議論に着目すると、取組にあたっての着眼点が見えてくる。産業活力では、「人材」、都市基盤・防災では、「人のつながり」、「共助社会の実現」、魅力創造・発信では「リンク」、「日本や世界の若者の交流」、若者・女性では、「国際化」、「女性が活躍する機運を盛り上げる」などであり、何かを考える時の着眼点となる。 ○重複行政に対応する前に、県と市が共同して、この地域の魅力を訴える施策をやっていただきたい。例えば、「転勤するならこの地域」などと焦点を合わせて、アピールできるものを分野ごとに取り組み、いつまでにやるのかということを表示していただきたい。
安田 文吉	○尾張と三河を合体して中京都構想を実現してもらいたい。 ○そのキーワードは、徳川家康である。家康は、三河で生まれて、名古屋城をつくったということで、尾張にも三河にも関係している。 ○岡崎に八丁味噌があるが、その味噌の桶は、名古屋の木桶である。又、名古屋は抹茶文化であるが、お茶は西尾のお茶である。こういった尾張と三河のつながりを大切にして、合体すればよい。 ○リニアの開通によって、移動時間が短くなることで、時間が空くので、その空いた時間をどうやって、名古屋や愛知に引き付けるかが大事である。 ○江戸時代、江戸・京・大阪を三都と言ったが、そこに名古屋が必ず入ってくる。それだけの力があり、いつも一番なのだから、名古屋は変わる必要はない。

山本 亜土	○行政体制のことは、時間がかかると思うが、両本部長が徹底的に話し合うことが必要である。一方、政策面ではある程度の方向性が見えてきたので、二重行政であるとか、無駄の排除ということを最優先に、まずは、できることから実施し、発信していくことで、この戦略への理解も進むのではないだろうか。 ○都市基盤・防災ということでは、リニア開業に向け、名古屋駅をスーパーターミナルとし、セントレアについては、日本のゲートウェイとなるよう、整備をしていかなければならない。この2つはセットである。 ○名古屋駅に加え、駅と栄や名古屋城などを繋いで回れるような都心をつくることも必要。 ○商工会議所としては、中小企業における防災対策への助成・支援となるような施策が必要であると考えている。 ○この地域は、大変豊かで力のある地域だと思うが、あまり面白味がないので、魅力創造・発信に力を入れていくべき。 ○極端な名古屋市への集中は避け、例えば、名古屋市から 30km から 40km ぐらいの圏域を、豊かな暮らしができる居住圏として発展させていくと、人口も増え、面白味も増えてくるのではないだろうか。
--------------	---